

女川町長招き震災シンポジウム開催

「阪神から東北へ——交流・連帯・絆」をテーマにした震災支援シンポジウムを、来年（2015年）1月16日（金）、カレッジホールでグループ〈わ〉と福祉振興協会が共同で開催します。第5次東北支援隊の報告会を兼ね、KSCのボランティア活動の原点となった阪神大震災を振り返り、今後の災害支援活動を考えようという趣旨です。特別ゲストに女川町長の須田善明氏を招いてトークショーを開くほか、カレッジ1期生らの体験報告、第5次支援メンバーの報告、記録ビデオ上映、パネル写真展、東北物産販売などを予定しています。（東北プロジェクト 南形徹）

1月16日カレッジで

20年の節目を迎える阪神淡路大震災。シルバーカレッジも全校挙げて救援活動に奮闘、〈ボランティア元年〉ともいわれました。キャンパスは支援物資の集積場になり、村内の温泉には半年間で13万人の市民が詰めかけました。東日本大震災からの復興が進む女川町は、住宅再建や地盤嵩上げ工事の真ただ中にあります。

シンポジウムは神戸と女川の復興に焦点をあて、須田町長、福祉振興協会の吾郷専務理事、〈わ〉の堺理事長らが復興の歩みについて語ります。

当時、被災した村内で活動した1・2期生や協会の職員からは貴重な体験報告があります。第5次隊のメンバーによる発表やパフォーマンスもあり、毎年好評の笹蒲鉾など東北の物産販売、パネル写真も展示します。

これまで東北支援隊の報告会はグループ〈わ〉の単独開催でしたが、今回は振興協会と合同で実施することになりました。シンポジウムの詳しい内容は11月初旬に発表します。

●準備急ぐ 震災シンポジウムの準備は東北プロジェクトのメンバーで進めています。▽堺汎・古後健一・海野龍英・四方久幸・内村ナナ子・南形徹・小林健二・波多野武郎・大澤貞男・芦田義和・川毛総子・橋野美子

子供たちからイラスト礼状

「ぶんぶんゴマ とても楽しかったです」。7月3・4日に訪問した女川第四保育所、名取が丘児童センターの子供たちからイラスト入りのカラフルな礼状が届きました。「いろいろな遊びを教えてください感謝しています。昔遊びセットのお土産に子供たちは大喜びでした」との職員一同のメッセージが添えられていました。3日の女川小訪問の様子は地元紙「石巻かほく新報」にも写真入りで大きく取り上げられました。

（⑥の写真は7月4日、名取が丘児童センターで）

●サポート募金賛同者（7月1日～9月30日）丸山信司（生5）1600円、宮城智子（音3）3千円、東本孝次（生14）千円、高橋孝男（国9）千円、瀧本雄子（生17）3千円、橋野美子（一般）5500円＝計15,100円



サポート募金継続のお願い

理事長 堺 汎

グループ〈わ〉の東北支援活動は4年目を迎え、この7月には第5次支援チーム10人を女川へ派遣。現地の方々と親しく交流することができました。これも皆さまのご支援のおかげと感謝しております。第5次の支援活動は、福祉医療機構からの助成金がストップしたため、約95万円の経費はサポート募金を充当し実施しました。

一方、小学校での学習支援活動（交通費）、伝統文化体験講座・各種の体験教室の経費も、これまで、福祉助成金で賄ってきましたが、今年度はこれらを打ち切らざるをえない事態となりました。こうした活動は、グループ〈わ〉として地域へ浸透を図るまたとない機会でしたので、なんとか継続の道はないか、と検討を重ね、サポート募金の用途を、東北支援から他のボランティア活動にも広げることで当面の急場をしのぐことにしました。

とは申しても、サポート募金の残高は10万円に満たず、学習支援などへの補助を継続しようとすれば到底足りません。東北支援活動も、ぜひとも継続したいと思っております。

ボランティア活動の資金確保には執行部一同、鋭意努力する所存ですが、この苦境を会員の皆さまにも知っていただき、サポート募金に今後ともご支援・ご協力をお願いする次第です。